



兵庫医科大学公衆衛生学教室（教室だより）

小泉，直子

(Citation)

神戸大学医学部神緑会学術誌, 11:222-222

(Issue Date)

1995-10

(Resource Type)

departmental bulletin paper

(Version)

Version of Record

(JaLCD0I)

<https://doi.org/10.24546/81007450>

(URL)

<https://hdl.handle.net/20.500.14094/81007450>



兵庫医科大学公衆衛生学教室

兵庫医科大学は昭和47年4月に開学され、昭和53年4月には大学院も設置されました。開学当時の全国の医師数は、人口10万当り116.7であり、また、年々の増加率も極めて低い状況でありました。厚生省は医師を充足するため、人口10万当り150を目標として、盛んに医師の養成を奨励致しました。人口500万人あまりの兵庫県では、医師養成大学は神戸大学医学部のみであり、近隣の府県からみるとまだまだ医師が不足しておりましたので、兵庫医科大学はかなり期待されて発足したと言えます。

本大学の公衆衛生学教室は、神戸大学公衆衛生学教室の助教授であった塚本利之先生が初代の教授として昭和49年7月1日に就任されました。当時の教室員は細田助手、二宮助手と実験補助の香川さんだけというこじんまりした教室でありました。発足当初から神戸大学公衆衛生学教室の分家のような感じがし、塚本教授も教室員の指導を神戸大学に依頼されたり、私も昭和52年7月に助教授として就任しました関係から、両教室はお互いに親密に交流するとともに、神戸大学から教えて頂くことが多くありました。しかし、当大学は私立大学ということ、また公衆衛生学が医師国家試験の必須科目という点から、どうしても国試対策を無視できない面があり、授業もできるだけ高学年で行うということで、主に5年生と以前には6年生も対象に行っておりました。また、当大学の学生実習で特徴的なことは、5年生の9月から6年生の7月まで行っている臨床実習に公衆衛生学実習が入っていることであり、このような大学は全国でも唯一つと自負しております。最初は1週間全てを保健所実習としておりまし

たが、時代の変化とともに、最近では老人保健施設、産業保健推進センター、特別養護老人ホームの施設実習や医療統計・情報処理、文献検索の実習以外に、法医学教室が担当して下さる検死・検案や死亡診断書の書き方の実習も加わり、医療以外の保健・福祉面の実習を公衆衛生学が受け持つという気持ちで頑張っております。

私は神緑会員のご支援により平成5年11月より塚本教授の後任をさせて頂くことになりました。研究・教育スタッフは二宮助手を講師として昇任し、神戸大学公衆衛生学教室の山本助手を講師として迎え、さらに本年4月から秋田大学医学部を卒業後本学大学院を卒業した永井助手が加わり、小さいながらやっと教室らしい雰囲気が整いました。今取り組んでいる研究テーマは、私が医学部卒業当初より取り組み、未だ未解決のカドミウムの関連問題と食品保健を中心に行っております。さらに、本年1月17日に発生した阪神大震災の瓦礫処理による環境問題として、被災地の大学としての義務感のような気持ちから粉塵測定を週2回行い、公衆衛生学的見地から検討を行っていきたいと思っております。今後は研究領域を次第に広げ、学生や教室員を大切に育て、さらに学外の社会問題にも対応しながら、教室を発展させて行きたいと考えておりますので、よろしくお願い致します。

最後に、本学では基礎医学系大学院は授業料が免除され入学金（平成7年20万円）のみで入学出来ますので、多数の方々が教室に入って来られるよう期待しております。

（小泉 直子 43年卒）